

冒頭に、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、このように保護者の皆様や在校生の参列を極端に限定し簡略化した形で式典を行わざるを得ないことは、誠に残念で申し訳なく思います。今日は保護者を代表して三浦祥子 PTA 三学年委員長様においでいただいております。せめて代表の方と先生方で皆さんの門出を精一杯お祝いしたいと思います。

式 辞

記録的な暖冬少雪でしたが、それでも春の訪れとは待ち遠しいもので、少し早い梅のつぼみのふくらみが楽しみな今日この頃です。早春のこの佳き日、ここに山形県立山形東高等学校第七十回卒業証書授与式を挙行できますことは、誠に大きな喜びであります。

ただ今卒業証書を授与しました二百三十五名の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは、入学以来の三年間真摯な努力を積み重ね、高等学校の全教育課程の修了を果たして、ここに晴れの門出を迎えました。

思えば三年前、卒業生諸君は期待と不安を胸にこの山形東高等学校での生活をスタートしました。私は、入学式で皆さんに、志を高く三兎を追う山東生であれと、式辞で述べました。三兎とは、学習活動、部活動等の課外活動、そして社会参加活動です。同じ高校でも、ずいぶん要求水準が高い高校だと思った人もいたと思います。しかし、今振り返ると、皆さんはこの三つの仕事を見事に成し遂げてくれたと思います。日々の学習活動はもとより、部活動では己の限界と向き合い、仲間と力を合わせて素晴らしい活躍を見せてくれました。東北大会、全国大会まで駒を進める生徒も目立ちました。また、アフガニスタンの子どもたちにランドセルを送る国際貢献活動から、近くの遊学館や文翔館でのイベントの手伝いまで様々な社会参加活動にも汗を流してくれました。

皆さんが在学した三年間は、平成と令和の二つの時代を跨ぐ三年間でした。本校としても、新しい時代を見込んで、「探究型学習」をキーワードに改革を始めた時期でもあります。「山東探究塾」での取組、探究部その他課外活動において積極的に外部で調査や発表を行う姿は実に頼もしく見えました。その足跡は、本校の大事な財産として一、二年生に確実に引き継がれています。皆さんはいわば新時代山東のパイオニアの学年でした。

学校行事で見せる、ここぞという時の集中力と団結もこの学年の優れた特徴でした。体育祭こそ雨で取り止めになりましたが、その分を挽回するかのように山東祭では若いエネルギーの炸裂を見る思いでした。‘New Eastar’のスローガンのもと、豊かな創造性と協力・結束する力を発揮し、全校をリードして、二千八百人を超える一般来場者を魅了しました。私はあの盛り上がりをおぼろげに覚えていることは決してありません。

馬見ヶ崎河畔で春風を受けて走った校内駅伝大会、米沢で二勝した後山形に戻って実現した九年ぶりの野球の全校応援、合格の願いを胸に、二千四百四十六段の石段を登った羽黒

山登山、数々の思い出とともに、今皆さんは通い慣れた学舎から旅立とうとしています。この日を迎えるまでお世話になったご両親やご家族、友人や地域に方々への感謝の気持ちを忘れず、健康に留意して新生活をスタートしてください。

これから皆さんが乗り出していく社会は、今大きな荒波の中にあります。急激な少子高齢化、地域コミュニティの弱体化、産業・経済のグローバル化、Society5.0、Industry4.0と呼ばれる超スマート社会の到来、かつて例を見ない自然災害や感染症の流行など、いずれも大きな変化が既に見えています。これまでのマニュアルが役に立たない場面、AIが解なしと答える局面に遭遇することも多々あるでしょう。そのときどう対応するのか、これが皆さん問われます。そこで大切になるのが、自ら課題を見つけ解決しようとする態度、主体的、対話的で深く学ぼうとする姿勢、つまり本校で培った「探究型学習」です。これをもとに、経験を積みアップデートを重ね、たくましい学びの主体であり続けてください。「学校教育は、一つの教育の手段である。」とはアメリカの思想家エマソンの言葉です。学校を終えてからこそが本物の学習の場です。その学びを生かして、地域の、この国の、そして世界の未来の創り手となり、社会を支える人間になりなさい。様々な障壁や困難にぶつかることもあられるでしょう。しかし、風は向かい風の時こそ一番高く上がります、風になびいているときではありません。勇気を持って前に進み続けなさい。イギリスの宰相チャーチルは言います。「金を失うことは小さく失うことである。名誉を失うことは大きく失うことである。しかし勇気を失うことはすべてを失うことである。」と。

もう一つ。人と人との心の通い合いを大切にしてください。豊かな社会生活を営むには豊かな対人コミュニケーションが不可欠です。スマートフォンやインターネット、各種ロボットなどの快適便利のためのツールは、本当に私たちの生活を豊かにしているのでしょうか。頻発する凶悪犯罪や虐待などの報道を見るにつけ、私は高校生を預かる身としてこの疑問と大きな危惧を抱かざるを得ません。世の中の全てのものには必ずいい面と悪い面があります。そのことを忘れないでください。社会で健全に生きて行くには、モニター画面上の記号に頼ることなく、生身の言葉と態度で人同士のコミュニケーションがとれる人間でなければなりません。人は「ありがとう」の数だけ賢くなり、「ごめんなさい」の数だけ優しくなり、「さようなら」の数だけ愛を知るのです。

結びに、この三年間、卒業生のために、本校のためにご支援とご協力を賜りました保護者の皆様、同窓会、地域の方々に心から感謝申し上げますとともに、卒業生二百三十五名の輝かしい前途に大いなる期待を込めて式辞とします。

令和二年三月三日

山形県立山形東高等学校校長 佐藤 俊一